

ヒノキアスナロの結実促進

道南の郷土樹種であるヒノキアスナロは、材質に優れていることから資源の回復を望む声が高く、苗木の需要が高まっています。しかし、ヒノキアスナロは結実の豊凶が著しいため、苗木が不足しがちで販売価格も高い状況にあります。そこで、植物ホルモンのジベレリン水溶液を用いた結実促進方法を検討してみました。

前年の6月から8月の間にジベレリン水溶液をヒノキアスナロに散布することで、着花を促進させることができました。最も効果の高かったのは8月の処理で、特に雌花の着花促進に有効であることがわかりました。この処理によって得たタネは天然のものと同様の発芽力を持っています。今後はジベレリンの処理方法の改善や育苗期間の短縮について検討を行います。

(道南支場)

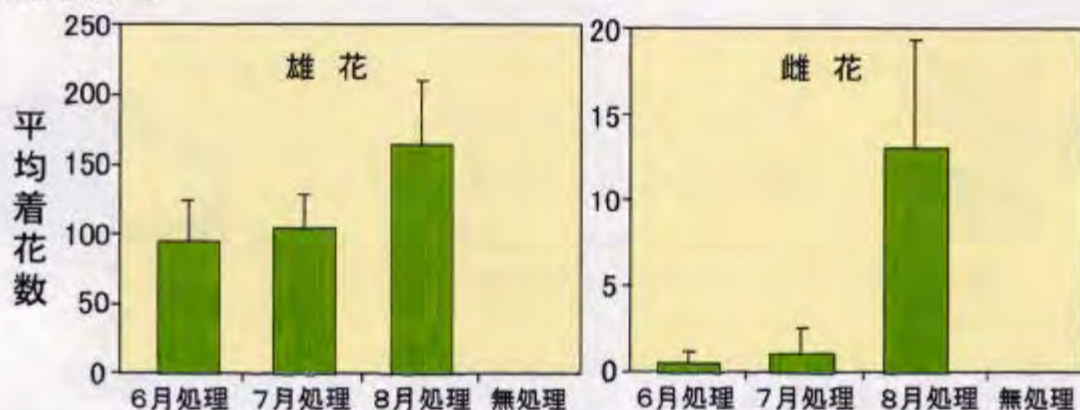


散布作業



結実した球果

(/枝先30cm)



ジベレリン処理時期と雄雌別着花数